

令和元年度 第1回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

令和元年6月7日(金) 13時30分～15時30分

2 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

・岐阜南部ブロックでは、昨年の11～4月まで価格の上昇が連続しているが、特に共販で引き合いがかなり強いことが理由である。また、ヒノキの3mが連続下落となっているが、1～3月まで例年になく好天に恵まれ、数量があるためにだぶつき感が出たことが原因と考えている。岐阜北部ブロックの在庫量について、7～9月の災害被害木の処理や北陸のCD材工場の不具合で、チップが原木も含めて岐阜に流入してきた。さらに岐阜南部ブロックの在庫量について、4月の在庫量が増えているが、今年は月末に10連休があって輸送関係がなかなか動かなかったことでバランスが崩れた。価格については、それほど下落が続いたという印象はない。

・今年の3月に極端に原木価格が高かったのはB材工場。A材工場については順調に製品が製造されており、引き続き強い要望がある。不足感があるのはB材工場。

・去年から今年にかけては好天に恵まれ、国の生産請負では安定した供給量があった。一方で需要は4月の後半に連休前の駆け込みで不足感があった。連休後にビルダーが弱くなってきている。消費の源がパワービルダーやローコスト系に流れていっており、並材でないとなかなか動かない。全体的な需給で見ると、供給は安定しているし、利益の上がるようなA材販売は難しいが、B材のほうが取り扱いやすい状況で推移しているのではないか。

・岐阜県の16市場のうち針葉樹を主に扱うのは13市場。4～6月は13市場の取り扱い量は前年度に比べて5%伸びている。価格についても伸びており、対前年度比14%で全体的に上がっている。

・本来はA～D材の調整がうまくできれば適正な価格になっていくのではないか。

・愛知でも4ヶ月連続で下落しているが、9月の台風の影響により材の受け入れがなかったが、10～11月になって急激に伸びている。これは東三河の市場で毎年開催している「三河材まつり」のため10月の半ばから材を集めたことに起因する。10月は作業路の復旧などに注力し、中旬以降は材が出てきた。まつりの効果もあって値段が上がった。3～4ヶ月価格が下落しており、11～12月がピークで下がってきているが、これが最近の標準的な価格と思っている。ただ、5月に入ってもあまり4月と変わらないような値だったということで先行きは心配している。